

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成 20 年 4 月 24 日 (2008.4.24)

【公開番号】特開 2006-111352 (P2006-111352A)

【公開日】平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)

【年通号数】公開・登録公報 2006-017

【出願番号】特願 2005-268553 (P2005-268553)

【国際特許分類】

B 6 5 D 88/66 (2006.01)

B 6 5 D 88/26 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 88/66 D

B 6 5 D 88/26 C

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 3 月 6 日 (2008.3.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

ここで、排出装置 152 では、弾性部材として、支持基部 184 と下部本体 162 との間に空気ばね 188 を設けたが、本発明はこれに限定されない。例えば、弾性部材として、図 11 (a) および (b) に示すような、中空のリング形状を有するエアチューブ 190 を支持基部と下部本体との間に下部本体の排出シュートを囲うように設けてもよい。

ここで、エアチューブ 190 は、生ゴム、合成ゴム、ブチルゴム等により形成され、図 11 (a) に示すように、中心軸に対して対称であり、排出シュート 173 の外周を覆うようなリング形状を有し、図 11 (b) に示すように、その断面は、リング形状の円周に対して垂直な方向 (図 11 (b) 中上下方向) における中央部分が内側にくぼんだひょうたん形状を有する。つまり、エアチューブ 190 の断面は、リング形状の円周に対して垂直な方向を長軸とする楕円の長軸方向における中央部分が内側にくぼんだ形状を有する。なお、エアチューブ 190 の形状は、特に限定されず、例えば、図 11 (c) に示すように、断面形状が、リング形状の円周に対して垂直な方向を長軸とする楕円となる形状としてもよく、図 11 (d) に示すように、断面形状が円形となる形状としてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

10、150 粉粒体切り出し装置

12、151 サイロ

14、100、152 振動式粉粒体排出装置 (排出装置)

16 サイロ支持体

18 排出装置支持体

20 防振機構

22 接続部材

30、110、160 上部本体

3 2、1 1 2、1 6 2 下部本体
3 4、1 1 4、1 6 4 障壁部材
3 6 加振手段
3 8、1 6 8 調整手段
4 0、1 1 6、1 7 0 シール機構
4 2 エアノズル
5 0、1 3 0、1 7 2 排出口
5 2、1 7 4 受け板
5 4 吊りボルト
5 6 取付部
6 0、1 2 0、1 7 6 バッフルプレート
6 2、1 2 2、1 7 8 スター
7 0 駆動部
7 2 ねじ部
7 4 支持部
7 6 連結部
8 0、1 8 0 ゴムチューブ
8 2、1 8 2 空気供給排出口
1 5 1 a 支持板
1 7 3 排出シュート
1 8 4 支持基部
1 8 6 ヒンジ部
1 8 7 ホース
1 8 8 空気ばね
1 8 8 a 給気口
1 8 9 コンプレッサー
1 9 0 エアチューブ